

■ Hardware

WinFast GeForce 3 TD p.214  
 Leadtek Research  
 MTV1000 p.216  
 カノープス  
 RP-U200 p.218  
 ヤマハ  
 CanoScan FS4000US p.219  
 キヤノン販売  
 LDR-214F p.220  
 ロジテック  
 HandEra 330 p.221  
 アスク/エム・ディー・エス

■ Software

DRIVE SAVE for Windows p.222  
 メディアバージョン  
 SmartVoice 4 XP p.223  
 NEC  
 Visual Shot 8.0 p.224  
 ソフトテック  
 Norton Internet Security 2001 v3.0 p.225  
 シマンテック  
 PC-Doctor サービスセンター2000 p.226  
 アップサイジング

■ 愛しのP級ソフトウェア

マイクロくん！  
 ソースネクスト p.227

3種類の出力端子を標準装備した  
 GeForce3搭載ビデオカード

コストパフォーマンス  
 機能性/操作感  
 総合評価

★★★★☆  
 ★★★★★  
 ★★★★★

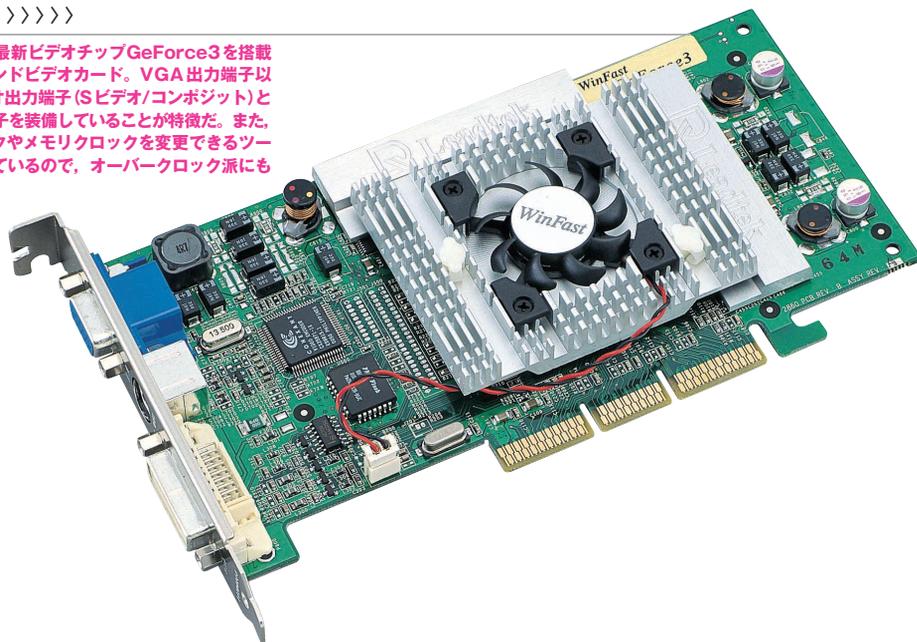
# WinFast GeForce 3 TD

製造元：Leadtek Research 販売元：パーテックスリンク >>>>>>

価格：オープンブライズ(実勢価格：5万円前後)

Point! >>>>>>

NVIDIAの最新ビデオチップGeForce3を搭載したハイエンドビデオカード。VGA出力端子以外に、ビデオ出力端子(Sビデオ/コンポジット)とDVI出力端子を装備していることが特徴だ。また、コアクロックやメモリクロックを変更できるツールも付属しているので、オーバークロック派にも向いている。



3種類の出力端子を装備

Leadtek Researchの「WinFast GeForce 3 TD」は、NVIDIAの最新ビデオチップGeForce 3を搭載したハイエンドビデオカードである。本製品の特徴は、VGA出力、ビデオ出力(Sビデオ/コンポジット)、DVI出力(DVI-I)の3種類の出力端子を装備していることだ。ただし、GeForce 3は、Twin Viewなどのデュアルディスプレイ出力機能を装備していないので、複数の出力端子から別々のデスクトップ画面を出力することはできない(すべての出力端子に同じデスクトップ画面が出力される)。また、それぞれの端子によってサポートされる最大解像度が異なり、VGA出力端子では最大2048×1536ドットの出力が可能だが、ビデオ出力端子では最大800×600ドット、DVI出力端子では最大1280×1024ドットまでとなる。

ビデオメモリは64MB実装されてお

り、同社のWebサイトの記述によると、搭載されているビデオメモリのアクセス速度は4ns(DDR駆動で500MHz相当)とのことだ。ビデオチップにファン付きのクーラーが、ビデオメモリにはヒートシンクがそれぞれ装着されているので、放熱性に関しても不安はない。

コアクロック/メモリクロック変更ツールが付属

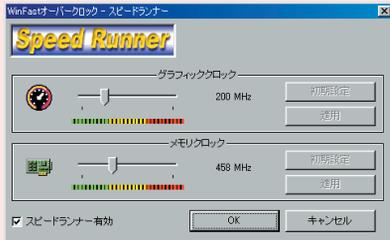
GeForce3は、定格ではコアクロック200MHz、メモリクロック460MHz(230MHzのDDR駆動)で動作するが、付属ユーティリティの「スピードランナー」を使えば、コアクロックを150～350MHz、メモリクロックを408～558MHzの間で自由に設定可能だ。もちろん、オーバークロックはメーカーの保証外の行為となるので、自己責任で挑戦してもらいたい。また、DVD再生ソフトの「WinFast DVD」や色調整ツールの「Colorific」、S端子→コンポ

ジット(ピン)端子変換ケーブルなども付属している。

量産版チップは性能も向上

本製品に付属するディスプレイドライバのバージョンは「4.13.01.1200」という新しいものであり、搭載しているGeForce3のチップも量産版のA5ステップになっている。以前にテストしたGeForce3搭載ビデオカード(A3ステップのチップを搭載した評価用カード)に比べて、パフォーマンスが向上している可能性がある。そこで3DMark 2001を用いて、ベンチマークテストを行った。結果はグラフ1のとおりで、A3ステップのGeForce3搭載ビデオカードに比べて、明らかなパフォーマンス向上が認められる。また、スピードランナーを使って、コアクロックとメモリクロックを上げ、コア221MHz/メモリ499MHzで実行したところ、無事3DMark2001が完走した。もちろん、

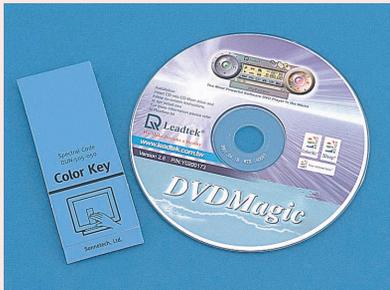




付属の「スピードランナー」を使用すれば、コアクロック、メモリクロックを変更できる



ブラケット部。左からVGA出力端子、ビデオ出力端子、DVI出力端子が並ぶ



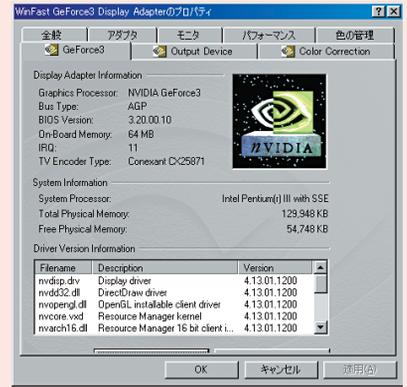
色調整ツールのColorificが付属しているので、使用しているディスプレイに合わせてICCプロファイルを作成できる



ビデオチップはGeForce3を搭載。試用カードでは、量産版のA5ステップが搭載されていた

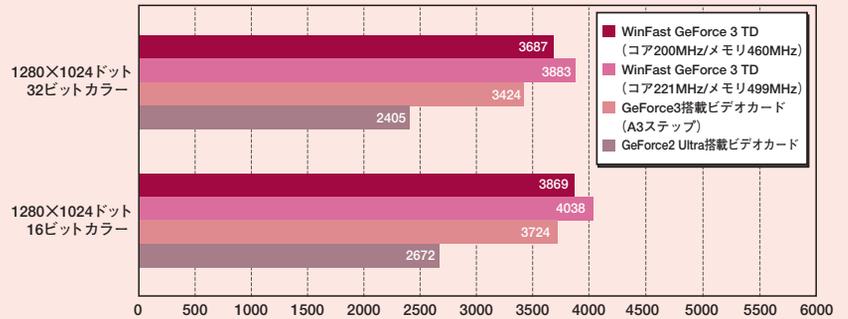


ディスプレイの色合いの調整は、同社オリジナルの補正画面で行える

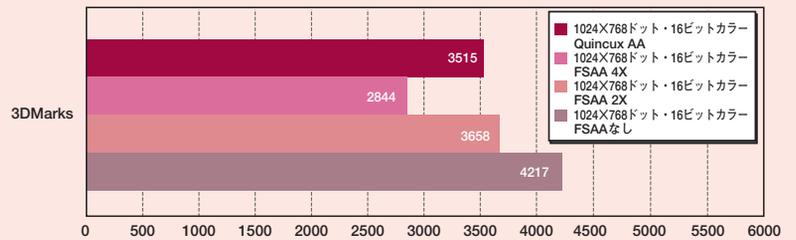


付属のディスプレイドライバのバージョンは「4.13.01.1200」

### グラフ1 3DMark2001の結果



### グラフ2 FSAAによる性能変化 (3DMark2001)



#### テスト環境

CPU : Pentium III/750MHz  
マザーボード : ASUS/TeK COMPUTER CUSL2 (Intel 815E チップセット)

メモリ : PC133 SDRAM 128MB (CL=3)  
HDD : IBM DTLA-307020 (20.5GB)  
OS : Windows 98 SE+DirectX 8.0

注1 : GeForce3搭載ビデオカードでは「D3D Pure Hardware T & L」を選択、GeForce2 Ultraは「D3D Hardware T & L」を選択した (D3D Pure Hardware T & LはGeForce2 Ultraでは選択できない)。

注2 : ディスプレイドライバのバージョンは、WinFast GeForce 3 TDでは「4.13.01.1200」、GeForce3搭載ビデオカード (A3ステップ) と GeForce2 Ultra搭載ビデオカードでは「4.13.01.1100」を使用。

コアクロックやメモリクロックを上げると、それに伴ってパフォーマンスも向上している。

GeForce3に搭載された機能の一つに「Quincux FSAA」があるが、これは4点サンプルFSAAに近い高品質な画面を、高速な処理速度で実現する機能だ。各サンプル方式別にベンチマークテストを行った結果がグラフ2だが、Quincux

FSAAは2点サンプルFSAAに近い処理速度となっているのが分かる。

DirectX 8に完全対応したビデオチップは、現時点ではGeForce3だけであり、ポテンシャルも非常に高い。その性能を生かせるDirectX 8対応アプリケーションが出揃うには、まだしばらく時間がかかりそうなので、あわてて購入する必要はないかもしれない。

しかし実売5万円前後という、当初の予想価格 (7万円前後) よりも2万円程度安く販売されており、値ごろ感はある (もちろん絶対的な価格は安いとはいえないが、その高いパフォーマンスを考えれば納得はできる)。とくにDVI出力をサポートしたハイレソポンスな液晶ディスプレイを使っていて、最新の3Dゲームを快適にプレイしたいと思っ

ているユーザーにはお勧めだ。  
(石井英男)

問い合わせ先 : パーテックスリンク  
☎03-5259-5129

インタフェース : AGP 2X/4X  
ビデオチップ : NVIDIA GeForce3  
ビデオメモリ : 64MB  
コアクロック : 200MHz  
メモリクロック : 460MHz (230MHzのDDR動作)  
対応OS : Windows 98/Me/2000